

長井市小中学校将来構想検討委員会（第3回）議事録

◇開催日時 令和4年8月22日（月）午後3時00分～午後5時00分

◇開催場所 長井市役所 2階 市民防災研修室

◇日程

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 前回までの振り返り
【説明：事務局】
- 4 ワークショップ
 - (1) 本日のワークショップの流れについて
【説明：事務局】
 - (2) グループワークショップ
【7つのグループで意見交換】
 - (3) 全体共有
【他グループの意見見回り・共感】
 - (4) 講評
【講評：迎田委員長、江間副委員長】
- 5 その他
- 6 閉会

◇出席者

【委員】

(敬称略)

番号	氏名	属性・役職	区分	第3回出欠
1	江間 史明	山形大学教職大学院 教授 【本会副委員長】	5号委員	○
2	大津 君彦	長井市社会教育委員/育みネット長井会長/子育連副会長	5号委員	○
3	鈴木 英明	本町商店街 理事長	5号委員	○
④	竹田 啓	長井小学校 校長 (小学校校長会会長)	1号委員	○
⑤	赤間 幸生	長井南中学校 校長	1号委員	○
6	迎田 浩昭	長井北中学校 校長 (校長会会長) 【本会委員長】	1号委員	○
⑦	菅野 弥則	長井市PTA連合会 会長 (西根小学校PTA会長)	2号委員	○
⑧	平 浩一郎	長井南中学校PTA会長	2号委員	○
⑨	小野 卓也	長井北中学校PTA会長	2号委員	○
⑩	高橋 美香	長井市PTA連合会母親委員会委員長 (西根)	2号委員	○
⑪	木村真由美	長井市PTA連合会母親委員会副委員長 (致芳)	2号委員	○
12	上村 正巳	地区長連合会 会長 (中央)	3号委員	○
13	青木 与惣右エ門	コミュニティセンター代表	3号委員	○
14	大沼 幸枝	長井市スポーツ推進委員会・女性委員代表	3号委員	○
⑮	赤間 正紀	児童センター父母の会連絡協議会 会長 (平野)	4号委員	×
16	渋谷 弘美	白ゆり保育園 園長	4号委員	×
17	孫田 恵	はなぞの保育園 主任保育士	4号委員	×
18	鈴木 裕美子	小桜幼稚園 元教頭	4号委員	○
19	工藤 望美	長井商工会議所青年部・女性代表	6号委員	×
⑳	齋藤 圭央	長井青年会議所 理事長	6号委員	○
21	齋藤 環樹	長井市副市長	7号委員	○
22	竹田 利弘	長井市 政策推進監	7号委員	○
23	青木 邦博	長井市 技監	7号委員	×
㉑	佐藤 久	長井市 財政課長	7号委員	○

※番号に○のついている10名の委員は、令和4年度からの新任者

【オブザーバー】

番号	氏名	属性・役職	第3回出欠
1	遠藤 倫夫	長井市教育委員会 教育長職務代理者	○
2	齋藤 暁美	長井市教育委員会 教育委員	○
3	菊地 和代	長井市教育委員会 教育委員	○

※小野卓也教育委員は、令和4年度は検討委員会委員⑨として出席

【事務局】

番号	氏名	属性・役職	第3回出欠
1	土屋 正人	長井市教育委員会 教育長	○
2	佐藤 秀人	長井市教育委員会 教育総務課長	○
3	横澤 聡一	長井市教育委員会 学校教育課長	○
4	小阪 寛幸	長井市教育委員会 教育総務課 補佐	○
5	今野 透	長井市教育委員会 学校教育課 補佐(兼)こども未来創造室長	○
6	新野 武憲	長井市教育委員会 教育総務課 教育総務主査	○

◇議事内容

1 開 会

【事務局/佐藤教育総務課長】

ただ今から、第3回長井市小中学校将来構想検討委員会を開催いたします。本日の司会進行を務めます、長井市教育委員会 教育総務課長の佐藤秀人です。どうぞ宜しくお願いいたします。はじめに、令和4年度より委員になられた皆様につきまして、委員紹介をさせていただきたいと思っております。なお、大変恐れ入りますが、時間の都合上、委嘱状の交付は机上配置にて行わせていただきますことをご了承ください。

《委員紹介》

【事務局/佐藤教育総務課長】

以上、令和4年度からは計10名の皆様に委嘱させていただきました。どうぞよろしく宜しくお願いいたします。続いて、長井市教育長 土屋正人よりご挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

【土屋教育長】

皆様こんにちは。コロナ禍が続いておりますがご参加いただきありがとうございます。今回から委員に委嘱させていただいた10名の皆様、どうかよろしく宜しくお願いいたします。またお忙しい中、本日も山形大学の江間先生にご指導いただきます。よろしく宜しくお願いいたします。

さて、新しい委員の方がいらっしゃいますので、私からは当検討委員会の主旨と、委員の皆様の役職が多岐に渡っている意味について、簡単にお話をさせていただきます。昨年度からこの会議を開催するにあたり、「何故このメンバーなのか」とか「雲を掴むような話で何を話したらいいかわからない」といったご意見を頂きましたが、前回、江間先生からは「様々な領域・関係者が集まり、話し合いを重ねながら雲を描く作業が非常に大事」というお話を頂きました。

当検討委員会は今年度3回の開催を予定しており、次回12月の会議には文部科学省 文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長の廣田 貢さんにもアドバイザーとしてご指導いただく予定です。実は「雲を描く作業」については廣田さんからも同じようなことを教えて頂き、関係資料を頂いております。「新しい時代の学校づくりについて考える」というワークショップの資料の中に書かれていた、廣田さんの言葉をご紹介します。「誰かがなんとかしてくれるのではなく、自分達が当事者として、自分達の手で学校や地域を作りあげていく。子供達の為に学校を良くしたい。元気な地域をつくりたい。そんな志が集まる学校・地域がつくられ、そこから子供達が自己実現や地域貢献など、志を果たしていく未来こそ、これからの未来の姿。」というものです。当検討委員会を開催する狙いはまさにこれです。

今日はワークショップを予定しておりますが、ワークショップの結論も見えていないわけではありません。これまでの2回の会議で、学校を取り巻く地域の課題や子供の理想の姿についてご意見を頂きました。大きな目標に対し、現実には課題が沢山あります。目標と現実の差を確認しながら意見を積み上げ、雲を描くように、将来の学校を考えて頂きたいと思っております。委員の皆さんにおかれましては、ご自身の立場や視点

で、自分ならどうしたいか、どうあってほしいか、自由闊達にお話し下さい。こうしなくてはならない、こういうふうな方法しかない、と早急に結論を求めるのではなく、将来の学校の選択肢をまとめていくことが当検討委員会の目的です。

会議の回数は全5回、今回を含めると残り3回です。今日はワークショップ形式で開催します。これからの長井の子供達、地域のために進めて参りますので、皆さんのお力添えをどうかよろしく願いいたします。

3 議題

【事務局/佐藤教育総務課長】

続きまして、次第「3 議題」に移ります。委員会設置要綱の第3条第3項により、委員長に座長をお願いします。迎田委員長、よろしくお願いいたします。

【議長/迎田委員長】

皆さんこんにちは。座長を務めさせていただきます、長井北中学校の迎田です。よろしくお願いいたします。早速ですが、前回までの振り返りについて事務局から説明をお願いします。

【事務局/新野教育総務課主査】

事務局、長井市教育委員会教育総務課の新野と申します。私からは前回までの振り返りについて説明申し上げます。昨年度の第2回までの会議は、テーブルを四角形に配し、委員からお一人ずつご意見を伺う形式でした。

◆第1回講話内容

第1回は山形大学教職大学院教授の江間先生からご講話いただきました。小中学校の昨今の動向、小中一貫校や、6年・3年の小中の学年区切りを変える色々な取り組みを行っている他校の様子、取り組みによって生じた効果や課題などをご紹介いただきましたところでした。

◆第2回講話内容

第2回は内谷市長から長井市のまちづくりについてご講話いただきました。内谷市長からは、少子化でも地域のコミュニティを守るために、小学校の統廃合は出来る限り避けたいとの話がありました。若い人の8割が地元に残らない一方、魅力がある所への移住希望者も増えています。長井市ではICTを活用したスマートシティを進めており、魅力あるまちづくりの実証実験中です。都市機能としては、クオリティ・オブ・ライフのために商業機能や公共施設の維持が重要で、郊外地区には小学校・児童センター・コミセン・郵便局の4つがあればコミュニティが維持できるというお話を頂きました。

◆第2回でのご意見

次に、委員及び教育委員から頂いたご意見を振り返りたいと思います。初めに、スマートシティに期待されている委員からは、市の設備機器から得られたデータを学校で譲り受けて生徒が分析するなど、探究学習に生かせればという話がありました。また、若者の市外転出を危惧されている複数の委員からは、就職先や商業機能の他、地元に戻ってきたときのやりがいや、伝統文化を残す仕組みづくりを希望する意見や、子供が長井に帰ってくる1番の理由は親の背中ではないか、という意

見がありました。また、一芸を極めた唯一無二の存在になれる環境づくりや、その指導方法の確立についてのご意見がありました。

一方、特に優秀でなくても、毎日楽しく笑って過ごして欲しいという、精神面について大事なご意見をいただきました。また、少子化で人間関係が限られていくため、例えば居住区域外の別の学校に通えるというような選択肢が出来れば、というご意見がありました。関連して、人間関係の形成は学習環境にも影響する重要事項であるというご意見もありました。

カリキュラムに関する制度改革については、中学校進学の際に生じる中1ギャップ解消のために小中一貫校が出来たら、というご意見がありました。一方、学年区切りは従来の6・3制か、それ以外がいいかは判断が難しい、というご意見もありました。探究的な学習については子供に対する内面的なサポートを手厚くすると進学にも繋がるのではないかと、というご意見がありました。

子供の視点に沿ったご意見としては、子供達が夢を実現するための自由な発想を大切にすること、子供の意見を聞ける場を設けること、学校は1人1人の好きな事・得意な分野が生かせる場所であってほしい、子供の得意なことが将来の仕事に繋がれば、という想いをお聞きしました。

この他、先進的な情報や技術に触れる機会も大事であるというご意見、長井市で経験できるものを大切に、便利さだけを求めないという価値観もある、というご意見、地域のコミュニティをもっと連携させたい、というご意見がありました。

次に、教育委員からのご意見について申し上げます。ハイレベルな技術・知識をもった専門家の話を聞く機会や、英語で日常会話が出来るレベルの教育、子供が希望する教育を遠慮なく受けられるような予算付けについての要望意見がありました。その一方で、特殊な学びは今の小中学校のカリキュラムではカバーすることが困難であること、特別講師を引き受けてくれる専門家や人材は限られているのでは、というご指摘と、文科省が管轄する学校教育から逸脱する内容は相当のチャレンジである、というご意見がありました。

◆第2回講評

次に、前回、江間先生から頂いた講評や情報提供について振り返ります。江間先生からは、「この将来構想検討委員会は雲を掴むような話ではあるが、問われているのは雲をどう描くかということ。そのプロセスの中で真のミッションに気づくこと。こうした議論をしていく中で新しい価値が生み出されるのではないかと」という心強いお言葉を頂きました。見えないところを少しずつ見える化していく作業が必要、というお話もありました。

昨今の文科省の動きについての情報提供も頂きました。文科省では現在「個別最適な学び」と「協働的な学び」を掲げており、インクルーシブ教育に関しては障がいと同時に才能を持った子供をケアする2E教育を進めるとのお話がありました。また、昨今のICT教育については、パソコンが先生の代わりになるのではなく、文房具の1つとしてどうパソコンを駆使して、世界や友達と繋がって対面で話し合い、共に考える場でどう動けるかが最も重要、というお話をいただきました。

また、長井市のコミセンについては、運営協議会に学校関係者が参加すれば、学校と地域の共通課題があった時に一緒に議論できるのではないかとのお話がありました。ただし先生は異動があるので熱意をもって話し合うことが必要、との助言

も頂きました。

また、戸沢村における江間先生の体験事例のお話がありました。戸沢村では、つくば市の元教育長である門脇厚司先生の協力を仰ぎ、「社会を担える人を育てる」をコンセプトに、社会力を育てる取り組みをしたそうです。コミュニティ、ネットワーク、人同士の繋がりや質をどう高めていくか、これらを学校という場でどう支えていけるのかが大事、というお話を頂きました。

また、小国高校を例に情報発信についてのお話がありました。小国高校は情報の発信の仕方が上手く、全国から入学生が集まっているそうです。情報は自ら発信する事で物事が動き出す側面があるというお話を頂きました。

◆これまでの意見の整理

次に、第1回と第2回で委員の皆様から頂いた意見の整理について説明申し上げます。第1回は江間先生から小中一貫校や学年区切り等の制度改革についてご講義頂きました。制度については皆さん初めてお聞きしたので、ご意見より感想が多い状況でした。第2回は内谷市長の講話を受け、先ほどの振り返りのおり、まちづくりや学びを取り巻く環境、子供の理想の姿などについてご意見を頂きました。事務局ではこれを踏まえ、目的・目標として子供の理想の姿を筆頭におき、関連するその他の意見を論理的な階層構造で整理した結果、概ね3つの理想の姿が見えてきました。

まず「①将来の社会を担う能力がある子供」です。これは第2回の江間先生の講評で頂いたお話から抽出いたしました。次に「②ふるさととのつながりを大切にすること」です。こちらは多数の委員の皆様からお話しいただいたご意見が基になっています。ふるさとを大事にしてほしい、地域との繋がりを大事にしてほしい、長井のことが大好きでまたいつか戻ってきてもらえるような子供が育ってほしい、というものです。次に「③笑って楽しく過ごせる子供」です。これは第2回の委員のご意見から抽出いたしました。学校は学習の場であるという主目的からすれば優秀さを求めることは大事なことです。が、優劣に関係なく毎日が楽しく過ごせることは、教育の理念としても非常に大事なことと思います。

なお、人口減少を鑑み、「子供達が将来長井に戻ってくるためにはどうしたらいいか」というご意見も多数の委員から頂きました。将来の就業や仕事のやりがい、生活していく上での都市機能などは、小中学校の在り方を越えた未来の話になります。「②ふるさととのつながりを大切にすること」を実現すれば、結果的にふるさとへ志を果たしに将来戻ってくるのではないかと、という期待を踏まえ、当検討委員会で扱う事項とは分けて考えることとします。

また、これまで述べた3つの理想の子供の姿を筆頭とした後、その下の階層構造に、これまで皆様から頂いたご意見を整理しました。理想の姿とは、どんなレベルなのか、そのレベルに達するのに必要な能力はなにか、その能力はどうやったら出来るのか、より具体的にはどんな取り組みが必要か、3~4段階の分析をして、資料のとおり整理したところです。

そして本日は、提示させていただいた理想の姿、3つをテーマにワークショップを行います。ワークショップの進め方は後ほど説明いたします。第1回と第2回までの振り返りについては以上です。

【議長/迎田委員長】

ありがとうございました。特に子供の理想の姿の3つのテーマは、主に第2回での意見を基に抽出したものであることと、これまでの意見についても、その3つのテーマに沿って整理したということでした。ただいまの事務局の説明について、質問や、別の方向性の提案等のご意見がありましたら、この場でお願いします。

《この時点での質問・意見は無し》

ただ今の時点で、ご意見・質問等はありませんでしたが、まだまだ色々なご意見や構想が出てくるものと思われます。事務局からは、10年後を見据えての選択肢を提言できるよう、雲を掴むような中でも雲を描くことが必要だ、という説明がありました。本日のワークショップも手探りから始まるとは思いますが、色々なご意見・交流を是非お願いしたいと思います。それでは、ワークショップの進め方について事務局から説明をお願いします。

4 ワークショップ

(1) 本日のワークショップの流れについて

【事務局/新野教育総務課主査】

今回は7つのグループでワークショップを行います。先ほど提示した3つの子供の理想の姿を筆頭にし、それを実現するにはどんな力が必要か、学校や地域でどんな事業・活動が必要か、また、それはどんな人に手伝って貰えば出来るのか、掘り下げて具体的な内容に入っていきます。今回は学校施設、いわゆるハードまで至らなくても結構です。当検討委員会は将来の学校の在り方を検討していますが、今回のワークショップでは、理想の子供の姿の実現のためには、どんな人との繋がり、地域との繋がりをもって、どんな取り組みをしていけばよいのか、主にソフト面についてお話し頂きたいと思います。ワークショップを通して、ぼんやりとしているところを見える化していきます。

グループワークの進め方を説明いたします。時間枠は45分とします。事務局で設定した子供の理想像とそのレベルに基づき、7つのグループにメンバー分けをしております。

グループ No. 1、2、3は、「**将来の社会を担う能力がある子ども**」を大テーマとしつつ、小テーマで3つのグループとします。グループ1が《**世界と上手につながっていける子ども**》、グループ2が《**課題を見つけ、解決への道筋を作る子ども**》、グループ3が《**個性を発揮し、社会へ影響を与える子ども**》とします。

グループ4、5はテーマを共通で「**ふるさととのつながりを大切に作る子ども**」とし、グループ6、7もテーマを共通で「**笑って楽しく過ごせる子ども**」とします。テーマを共通としながらグループ分けしたのは、2つのグループで違う意見が出てくる可能性があることと、その差異を見たい、という意図があります。

45分の時間枠のうち、7つのグループで15分のセッションを3つ行います。各セッション15分のうち、前半7分は、事務局から提示した問いについて、個人の考えを付箋に書いてください。時間内で思いつく限り付箋は何枚でも結構です。後半の8分は、付箋に記載した内容について、どうしてそういうふうに考えたのか、グループ内で説明し合いながら、付箋を模造紙に貼り、類似の意見や関係する意見があれ

ば貼る位置を変えるなどグルーピングしてください。

15分のセッションを3回行いますので、事務局から提示する問いは3つです。各セッション中、付箋の位置は適宜変えていってください。

45分間のグループワークの後、10分間の全体共有の時間を設け、他のグループの模造紙を見て回ります。その際、この意見は良いな、と共感した付箋については、ペンで☆星印を記入してください。この作業を経た結果、共感の多いスター付箋が抽出されます。これを皆さんで共有したいと思います。

全体共有が終わりましたら、本日のワークショップについて10分間、迎田委員長と江間副委員長から講評を頂きたいと存じます。

(2) グループワークショップ

《7つのグループに分かれ、15分×3セッションのグループワーク作業》

- ・セッション①…理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か
- ・セッション②…学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か
- ・セッション③…その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）

(3) 全体共有

【事務局/新野教育総務課主査】

それでは、自分のグループ以外のテーブルに移動して頂き、他グループの意見を見回る時間を設けます。この意見は良いねという共感や、この視点は大事である等の発見があった付箋については、ペンで☆星印を記入してください。記入する星印の数の制限は設けませんので、お1人様いくつでも記入してください。

《他グループの見回り・共感・発見の時間》

- ・グループワークの模造紙、☆星印の集約結果は次ページ以降のとおり
- ・共感が多かったスター付箋についての凡例は次のとおり

☆7以上…網掛、太字、下線付き

☆6～4…太字、下線付き

☆3～1…下線付き

【グループ2】…将来の社会を担う能力がある子ども②

小テーマ 《課題を見つけ、解決への道筋を作る子ども》



①理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か

- 力**…☆5「自分を知り、やりたいことを見つける力」、☆3「体験・試行錯誤による気付ける力」、☆2「理想を考える力」、☆2「失敗してもあきらめない粘り強さ」、☆1「他人を思いやる力」、☆1「皆が良くなるにはどうすべきか気づける力」、「関係形成力」
- 経験・体験**…☆3「失敗・再チャレンジ体験」、☆3「他者と関わることが苦手な人もいることを知る事」、☆2「新分野の知識・自分に無い能力の吸収」、☆1「苦しさを他者と共に味わう体験」

②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か

- 授業**…☆2「No. 1に触れる授業」、「自分でテーマを掘り下げる探究型の学習」
- 活動**…☆2「数人で一つのことに取り組み、地域の方から評価してもらう活動」、☆1「意見をまとめ、先生と調整・交渉する児童会・生徒会活動」、☆1「伝統行事の継承で広く他人と関わる」、「異なる意見の中で落としどころを探る活動」「タテ・ヨコの繋がりによる協働作業・勉強会」、「地域での福祉活動」
- 他者との関わり**…☆1「親が気づきのある人でないと子供もそうなれない」

③その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）

- 学校**…児童会・生徒会
- 地域内**…家庭、企業、福祉体験の出来る場所、伝統行事を継承できる場所
- 地域外**…芸能人など

【グループ3】…将来の社会を担う能力がある子ども③

小テーマ 《個性を発揮し、社会へ影響を与える子ども》



①理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か

- 力**…☆5「同調圧力に負けない」、☆5「失敗を受け止める」、☆2「人との違いを気にしない」、☆2「守られすぎによるリスク改善」、☆1「自分の個性を認識する」、☆1「自分の価値を客観的に知る」、☆1「地域や人材の価値に気づく」、「何でもチャレンジできる」、「コミュニケーション能力」
- 経験・体験**…☆1「有償ボランティア体験」、☆1「障害など関係なくチャレンジ」、「自分を理解してくれる人がいる」、「成功を褒めてもらう」

②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か

- 授業**…☆3「リクエストに応えられる授業」、「中1ギャップ対策」、「余裕ある学校教育現場」
- 活動**…☆4「やりたいことを選択肢の多さ」、☆4「子供が先生になる機会」、☆4「余裕ある子供の生活時間」、☆1「子供のやりたい事を実現する」、☆1「地域の専門家を学校へ」、☆1「プログラミングを突き詰める」、「ICTのフル活用」、「放課後時間の活用」、「学校とは異なる活動・チャレンジの場」、「仲間づくりのロールプレイの場」、「高校生との活動・繋がり」
- 他者との関わり**…☆2「同質・同水準からの脱却」、☆1「子供の意見に対応できる学校窓口」、☆1「先生の考え方の進化」、「個性が似た者同士の集まり」、「学校以外での先生が必要」、「安全なSNS」、「子供だけのコミュニティ」

③その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）

- 学校**…教員、子供本人
- 地域内**…褒めてくれる大人、学校以外の先生、専門家、高校生、人生経験豊富な高齢者
- 地域外**…学校以外の先生、専門家、首都圏の若者、ボランティア

【グループ4】…ふるさととのつながりを大切にする子ども①



①理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か

- 力…☆1「多くの人と関わる力」、☆1「地域の良さを知る力」、「伝統行事を大切にする心」
- 経験・体験…☆2「地域の自慢の宝物との触れ合い」、☆1「幼少期から地域活動に関わる経験」、☆1「世代を超えた交流」、☆1「子供会への参加」、「地区住民との交流・受け入れによる自己肯定感の向上」

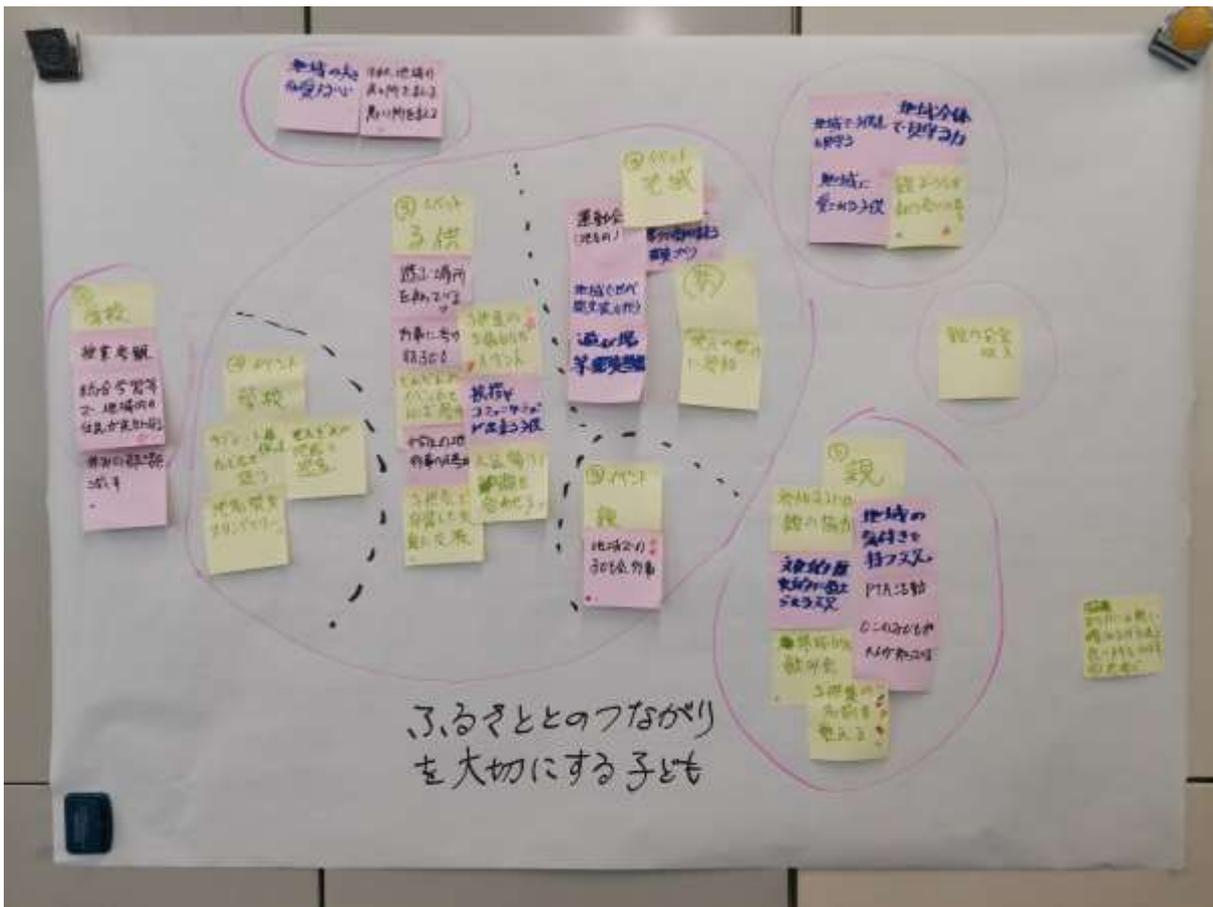
②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か

- 授業…☆2「地域の先生に授業をしてもらう」、「地域学習」、「長井の歴史」、「公共施設巡り」、「地区・まち歩き」、「校外学習を増やす」、「地域の良さ再発見」
- 活動…☆2「近隣の子ども会との合同行事」、☆2「お祭りへの参加」、☆1「クラブ活動に地元産業を取り入れる」、「生涯スポーツ・大会への参加」、「地域におけるボランティア活動」、「地域活動を絶やさないための従来行事・活動区域の見直し」、「幼児施設・福祉施設への訪問」、「職場見学・体験学習」、「獅子舞などの発表会」、「地域の祭りの動画配信（祭り期間外も）」、「廃品回収」
- 他者との関わり…☆3「子供のいない世帯からの協力」、☆2「保護者の協力体制」、☆1「地域活動への積極さには親の参加が重要」

③その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）

- 地域内…地域住民、子供会、コミセン、行政、公共施設、幼児施設、福祉施設、観光協会、寺、神社

【グループ5】…ふるさととのつながりを大切にする子ども②



①理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か

- 力…☆1「地域を愛する心」、☆1「地元の良いところ、悪いところを言える」、「挨拶・コミュニケーションが出来る」
- 経験・体験…☆2「お盆等に顔を合わせる」、☆1「遊ぶ場所を知っている」、「行事に参加する」、「プラス思考で良いところを伸ばす」

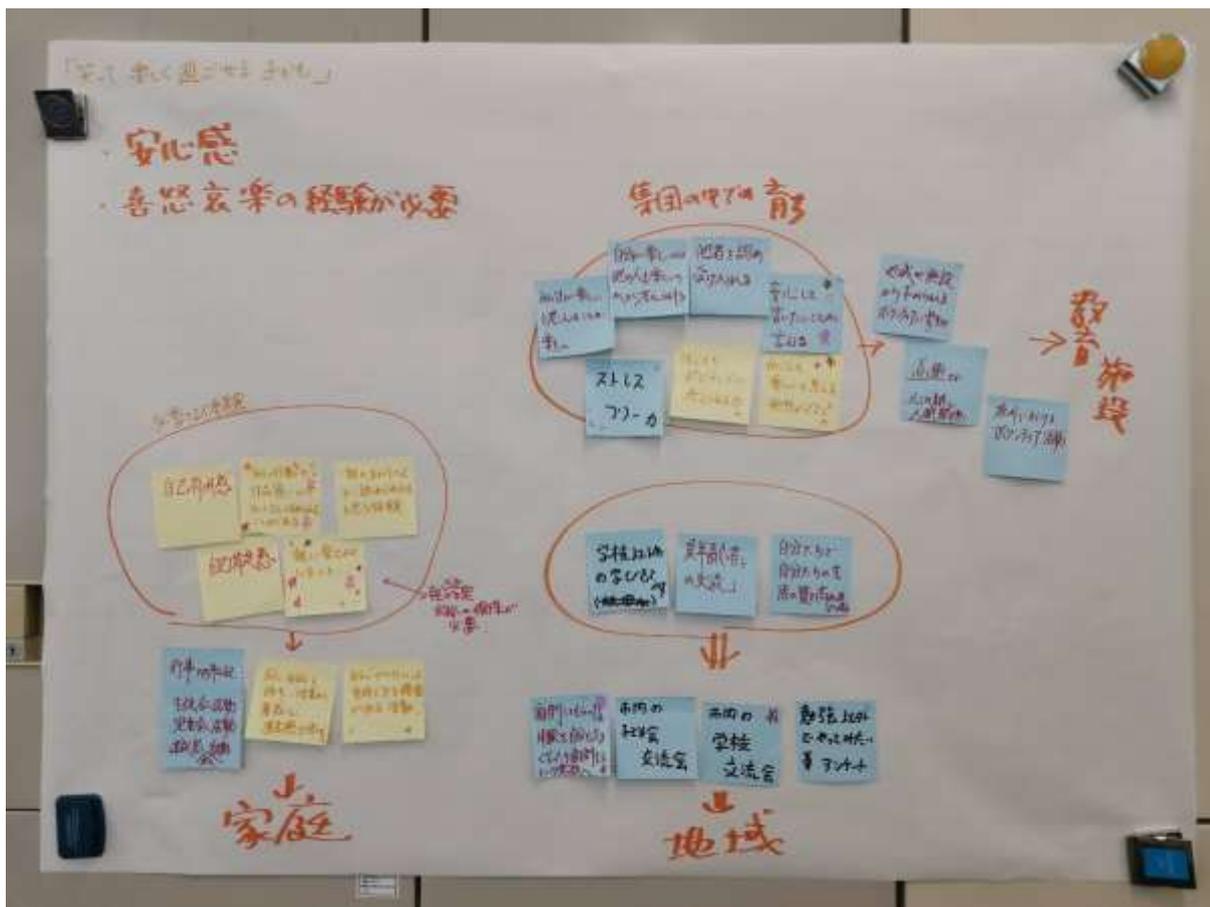
②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か

- 授業…☆2「総合学習等で地域住民が先生になる」、「授業参観」、「PTA活動」
- 活動…☆4「地域での子供会行事」、☆3「子供達が主導のイベント」、☆1「地域イベント・祭りに参加できる環境づくり」、☆1「中学生の地域行事への参加」、☆1「子供会で卒業した先輩たちと交流」、☆1「地名発見スタンプラリー」、☆1「大人達の積極的な飲み会」、「地元の祭りに参加」、「地区の運動会」、「世代間交流」、「遊び場等の環境整備」、「休日の部活を減らす」、「タブレット端末を使って地域クイズ巡り」、「地域全体で子供達を見守る」
- 他者との関わり…☆6「子供たちの名前を覚える」、☆2「子どもが地域に愛される」、☆2「親同士が知り合い」、「どこの家の子供か大人が知っている」、「子供が参加するには親の協力が必要」、「親の安定収入」

③その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）

- 学校…子供達本人
- 地域内…家庭、親、PTA、地域住民、地域の気づきを持つ父兄、文化・歴史を教えられる父兄

【グループ6】…笑って楽しく過ごせる子ども①



①理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か

- 力…☆4「ストレスフリー力」、☆3「何事も楽しいと思える力」、☆1「何事もポジティブに考えられる力」、「他者を認め受け入れる」
- 経験・体験…☆9「親に愛されていること」、☆7「自分の行動・作品等について沢山褒められること」、☆4「自分が面倒を見てもらった体験から、大きくなったら面倒する側へ」、「親や周囲に認められていると思う体験」、「自己肯定感・有用感」、「同じ目的を持つ仲間と活動して達成感を味わう」、「安心感」、「喜怒哀楽の経験」、「達成感・成就感」、「みんなが楽しいと思えることが楽しい」、「自分が楽しいのは他人も楽しいのか考える」、「学校以外の学び」、「自分たちの生活の質を自分たちで高めようとする」

②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か

- 授業…☆2「自分のやりたい、を実現できる環境」、「道徳での心の耕し」
- 活動…☆1「市内の学校同士の交流会」、☆1「勉強以外でやってみたいことのアンケート」、「児童会・生徒会活動」、「校外ボランティア活動（地域・施設からの要望も）」、「市内の子ども会交流会」、「異世代との交流」
- 他者との関わり…☆3「安心して言いたいことが言える」、「親にも心の安定・余裕が必要」

③その活動は、誰が実施の主体になるといいか（学校、地域、地域外、その具体的な主体）

- 学校…教員、子供達本人、児童会・生徒会
- 地域内・外…親・家庭・家族、異世代の大人や子供、褒めてくれる大人、子供会・育成会、ボランティアを求めている施設・団体

【グループ7】…笑って楽しく過ごせる子ども②



①理想の姿になるためには、どんな「力」「経験・体験」が必要か

- 力…☆5「しなやかな心」、☆4「他者の個性を認める力」、☆3「回復力 (レジリエンス)」、☆3「辛ければ逃げる力」、☆2「グッドルーザー (潔い敗者) の精神」、「大変なことから目を背けない力」、「トラブルを乗り越える力」、「いじめをしない力」
- 経験・体験…☆7「沢山の失敗経験」、☆5「他者から認められる経験」、☆1「多様な考え方を知る」、☆1「地域行事に主体的に関わる」、「大人と一緒に 1 つの事業を体験」、「家族と一緒に過ごせる」

②学校や地域でどんな「授業」や「活動」や「他者との関わり」が必要か

- 授業…☆1「個人テーマの追求学習」、「インクルーシブな道徳授業」、「いじめ解決のための協働思考授業」
- 活動…☆2「個の良さを見える化する (他者からの評価をもらう機会)」、☆1「様々な職業の方の話聞く」、☆1「不登校の子を受け入れる地域活動」、「障がいのある人の話を聞く機会」
- 他者との関わり…☆1「学校だけでない人間関係」、「周りが笑顔で見守れる」

③その活動は、誰が実施の主体になるといいか (学校、地域、地域外、その具体的な主体)

- 学校…教員、児童・生徒同士
- 地域内・外…親・家庭・家族、スポ少、クラブチーム、NPO、JC (青年会議所)、青年団体、企業、個人事業主、専門家、社長、YouTuber

(4) 講評

【迎田委員長】

講評は江間先生にお任せすることとして、私からは今日のワークショップに参加した感想を述べたいと思います。私の参加したグループのテーマは「課題を見つけ、解決への道筋を作る子ども」で、自分のところの模造紙を完成させた後、皆さんのグループの模造紙を拝見し、気付いたことがありました。

ほぼ全てのグループにおいて、学校だけでなく、家庭・地域・企業等が関わる取り組みが書かれていました。「この取組をおこなうのはこの場所でなければならない」というよりも、「ここでも、そこでも、あちらでもやらなければならない」というように、総がかりで子供の教育に関わっていく事がポイントになっていると感じました。

それと同時に、学校は結局何をするのか、家庭は最低現何をするのか、地域に求めることは何か、という境界線が曖昧になる不安も感じています。学校では現在、様々な視点の教育、カリキュラム、給食や普段の食べ物、環境問題や政治に関わるものまで、広範な対応を求められています。学校は社会の要請に関わる場ですので、それは当然のことです。しかしながら、本来学校に求められている根源は何かを問われた時に、ブレずに持っていなければならない要点があります。同様に、ご家庭や地域に求められる要点も勿論あるわけです。これらは今後も大事にしていかなければならないことと思ひ、感想として述べさせていただきます。

【江間副委員長】

私からは参考情報やキーワード、所感を述べさせていただきます。文科省からは2021年に『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』という答申の資料が公表されており、その中にある、今の日本の学校をどう変えていくかについて、大学の授業用に私が整理した内容の一部を紹介したいと思います。

◆学びのあり方の変化

まず1つ目です。答申では次のようなことが書かれています。

「我が国の教師は、子供たちの主体的な学びや、学級やグループの中での協働的な学びを展開する事によって、自立した個人の育成に尽力してきた。その一方で、我が国の経済発展を支えるために「みんなと同じことが出来る」「言われたことを言われたとおりに出来る」上質で均質な労働者の育成が高度成長期までの社会の養成として学校教育に求められてきた中で、「正解（知識）の暗記」の比重が大きくなり、「自ら課題を見つけ、それを解決する力」を育成するため、他者と協働して自ら考えぬく学びが十分なされていないのではないかという指摘もある。」

これは今日のグループワークでも似たようなテーマがありました。1人で頑張るよりも、誰かと一緒に考え抜くことが大事で、正解指示からの脱却を考えて下さい、という内容です。

◆同調圧力からの脱却

2つめは、グループワークでもキーワードとして挙げてきた同調圧力についてです。先程と同様に答申では次のようなことが書かれています。

「学習指導要領ではこれまで、「個人差に留意して指導し、それぞれの児童(生徒)の個性や能力をできるだけ伸ばすようにすること」、「個性を生かす教育の充実」等の

規定がなされてきた。その一方で、学校では「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求する面が見られ、学校生活においても「同調圧力」を感じる子供が増えていったという指摘もある。社会の多様化が進み、画一的・同調主義的な学校文化が顕在化しやすくなった面もあるが、このことが結果としていじめなどの問題や生きづらさをもたらし、非合理的な精神論や努力主義、詰め込み教育等との間で負の循環が生じかねないということや、保護者や教師も同調圧力の下にあるという指摘もある。」

基本的には、皆と同じことを同じようにできるというのは、ある水準までは必要ですが、日本の場合はそれを過度に求めてしまったので、同調圧力からの脱却が必要であるということです。

◆学びにおける自立・依存・協働・個別

また、これはコロナの影響もあるのですが、自立学習については次のようなことが書かれています。

「学校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、「何をしても良いか分からず」学びを止めてしまうという実態が見られたことから、これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないかという指摘もある。」

探究的な学習についてもグループワークでキーワードとして挙がっていました。個別最適な学び、1人1人に合わせた教育をやろう、と言われていますが、それは孤立した学びになってはいけません。子供同士、地域の方々との関わりや、一緒に学ぶ協働的な学びの必要性については、文科省では次のようなことを言っています。

「1人1人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」

令和の日本型学校教育について、答申をまとめた合田哲雄さんの言葉を紹介していますが、何を目指していくかということ、子供たちが同調圧力に屈しないで自立し、対話と協働を重ねながら持続可能な社会を作っていくこと、特定のリーダーやAIに社会の行く末を丸投げするのではなく、コストがかかり面倒でも意見の異なる他者と対話していくこと、そのための学校教育である、ということです。

合田さんの意見としては、自立というのは多くの他者と互いに適切に依存する事であり、学びを通じて他者と相互に適切に依存できる強さを育むことが学校に求められている、というものです。依存や頼ることは弱いからではなくて、助けが欲しい時には「助けてください」と言い、依存できることも強さの1つです。これからの社会は1人で全部背負って頑張れば良い訳ではなくて、他者と互いに適切に依存することです。かつ、自分で考えていく「自立した学習者」ないしは「自立した学び手」を考えていこう、という話が出ています。

◆グループワークを通して

先ほど迎田委員長からご指摘があった点について申しますと、今回のグループワークは、それぞれの方の経験を踏まえた意見で議論をされたと思います。大局的に見れば同じ社会に生きているので、これからの社会に求められていることを記述しているという点でいえば、どうしても重なってくる部分が多いな、と思いました。

◆ふるさとへの愛着

当検討委員会で何度も出てくる「ふるさととの関わり」について述べます。これまで私がいくつかの自治体と関わった中で見ると、ふるさとへの愛着は、ふるさとに関する色んなことを知ったから出来るのではなく、人と関われるかどうかにかかるところが大きいようです。その人がいるから、ふるさとへの愛着が出来るのであって、ふるさとへの愛着を知ったからその人と関わる訳ではありません。世代を超えて地域の色々な人達と関わって一緒に何かをやること、一緒にやれる条件を揃えていくプロセスがふるさとへの愛着を生むのであって、ふるさとへの愛着のために何かを知ることは、実はあまり効果がないようです。

◆対話の重要性

今の社会は分断されているというか、1人1人が頑張れば何とかなるだろうという風潮が見られます。そのような社会にあっても、手間やコストがかかっても意見の異なる他者とちゃんと対話をしていく、お喋りすることが大事だということです。今日のグループワークがそういう場となったことと、皆さんから挙がってきた意見が少しでも進みつつあるのかな、と思ったところです。

5 その他

【事務局/佐藤教育総務課長】

ワークショップへのご参加ありがとうございました。それでは、その他について、事務局から何かありますか。

【事務局/新野教育総務課主査】

皆様の想いがこもったワークショップができましたこと、改めて感謝申し上げます。本日のワークショップは、理想の子供の姿の実現のために、どこで・誰が・何を・どのようにするか、といった、主にソフト面についてのご意見を頂きました。

ハード面については、どういった機能・学校施設があるべきか、既存の学校の維持だけでなく、場合によっては何か別の施設と複合化することで、地域や他者との繋がりが出来る点もあります。当然人口が減っていけば統廃合という手法もあるかと思えます。

今日の振り返り踏まえ、次回は文科省の廣田さんにご指導いただきながら、再度ワークショップ形式による熟議を開催予定です。引き続き、皆様のご参加とご協力をお願いします。

6 閉会

【事務局/佐藤教育総務課長】

これをもちまして、第3回長井市小中学校将来構想検討委員会を閉じます。長時間に渡る熟議、ありがとうございました。

以上